

# 今年3月31日！イースター、8つのトリビア



バレンタインデーを過ぎると、小売店の店頭がパステルカラーに様変わりします。今年のイースター(復活祭)は3月31日。イエス・キリストが起こしたとされる最大の奇跡:十字架に架けられての処刑から3日後の復活を祝い、キリスト教における重要な行事です。そうは知っていても、なぜ毎年日付が変動するのか、たまごやウサギがどう関係するのか等と、疑問に思ったことはありませんか? 当地での生活に関連するかもしれない、イースターに因んだ8つのトリビアを紹介します。

## ■トリビア① 日付は、年によって最大1か月も変動する

イエス・キリストが十字架に架けられた日は、ユダヤ歴で正月にあたる「ニサンの月」の14日金曜日だったと云われています。それを現在の暦におおよそ換算し、復活を祝す日を「春分の日以降、最初の満月の日から数えて最初に迎える日曜日」とする旨が、紀元300年頃に定義されました。月の満ち欠けの周期に左右されるため、早い年で3月22日、遅い年で4月25日と、約1か月もの幅が生じます。ちなみに今年3月末ですが、来年2025年は4月20日と遅めの日程です。

※教派により算出する考え方や日付が異なります。上記はアメリカで一般的な、カトリックやプロテスタントなど西方教会の考え方です。

## ■トリビア② 名称そのものに、復活の意味は含まれない

復活祭は、英語表記でEaster。実は、この単語そのものに「復活」という意味は含まれません。名称の由来は諸説ありますが、ゲルマン神話のエオストレ(Eostre)という春の女神の名に因んだもの、との説が有力だそうです。春や命の芽吹きを司るエオストレの伝説と、イエス・キリストの復活が融合し、6~8世紀ころ現在のイースターの原型に至ったと考えられています。

## ■トリビア③ イースター前の金曜日が祝日の州もある

イースター前の金曜日、イエス・キリストが磔にされた日を「グッドフライデー(Good Friday)」といいます。グッドフライデーからイースターまでの3日間は、イエス・キリストが磔にされるという受難を越え復活し、更には神になっていくという過程に思いを馳せるものであり、キリスト教では最も重要な期間と位置付けられるそうです。そのためキリスト教徒の多い国や、アメリカ国内では12の州で祝日とされています。テキサス州は祝日ではありませんが、お休みの学区やスクールも多いです。また、ニューヨーク証券取引所や多くの金融機関が閉まる日でもありますのでご注意ください。なお、なぜこのような日が「Good」と形容されるのかについては、「Good」は「God's」が転じたもの等、いくつかの説があります。

## ■トリビア④ 関連するイベントは、実は2か月前から始まっている

上述のグッドフライデー以外にも、なんと2か月前から、キリスト教のイースター関連のイベントは始まっています。

### ○41日前: Fat Tuesday

後述するLentが始まる前日、断食の苦行に備えて飽食をする日。フランス語では「Mardi gras」。お隣ルイジアナ州ニューオーリンズで行われるマルディグラの祭典は、この日を最終日とする11日間のカーニバルです。

### ○40日前~: Lent

敬虔なクリスチャンはこの期間に肉を控え、魚と野菜で40日間を過ごします。アメリカでは、そこまで厳密にせず独自に決めた何かひとつを我慢する、という方が多いそうです。ちなみに初日を「Ash Wednesday」と呼び、悔い改めの印として額に灰を受ける儀式が教会で行われますが、こちらアメリカでは稀だそうです。

### ○7日前~: Holy Week

イースター直前の一週間。特別な儀式はありませんが、季節の挨拶として会話に出てくることもあるかもしれません。

### ○2日前: Good Friday

前述のとおり。

## ■トリビア⑤ イースターエッグの色や柄には意味がある

イースターと言えば、カラフルなイースターエッグを連想される方も多いと思います。キリストの復活とたまご、両者に何の関係があるのか不思議ではありませんか? これは鳥が卵の殻を破って誕生するように、イエス・キリストも死という殻を破って復活したという解釈に則り、新しい命に満ちたたまごが、復活のシンボルとされるようになったからだそうです。そんなイースターエッグのペイントには、色や柄ごとに意味が込められています。

### ○色

赤:キリストの血、情熱、幸福 / オレンジ:強さ / 黄色:知恵 / ピンク:成功 / 青:健康 / 緑:豊穡、子孫繁栄 / 紫:信頼 / 白:誕生、純潔

### ○柄

星:キリスト、厄除け / 太陽:生命、情熱、富 / 木:繁栄 / 麦:豊穡 / 花:美しさ / 波:富、永遠 / 魚:救世主、子孫繁栄 / 三角(狼の歯):厄除け

## ■トリビア⑥ ウサギが登場するようになったのは、わりと最近

ウサギは一度にたくさんの子を産み、世界的に子孫繁栄を象徴する存在ですが、イースターバニーとして関連付けられるようになったのは、ここ数百年のこと。その経緯は諸説ありますが、どれも以下のような可愛いストーリーです。

○クリスマスのサンタクロースのように、イースターにお菓子やおもちゃを子どもたちに届ける存在であった

○ウサギが森や庭にたまごを隠したことが、エッグハントの始まりとなった

○名称の由来である春の女神エオストレが、野ウサギが献上した春色のたまごを、春風に乘せて皆に配ったとの伝説から

## ■トリビア⑦ アメリカにおける市場規模は、バレンタインとほぼ同じ

全米小売業協会(NRF)の発表によると、昨年2023年のイースターの市場規模は\$24B。これは同協会が予測する、2024年バレンタインの市場規模である\$25.8Bにほぼ匹敵する額です。年末のホリデーシーズンの規模に比べると1/10程ですが、バレンタインはアメリカでも市場規模の大きなイベントと言われていることを踏まえると、その盛り上がりを想像いただけるかと思います。なお、バレンタインは比較的高額な花束やジュエリー等が売れるイベントですので、お菓子を含む食品の売れ行きは、イースターの方が多いのかもしれません。

## ■トリビア⑧ モアイ像で有名な「イースター島」、名前の由来はイースターから

アメリカ生活には関連がありませんが、意外と知られていない事実だと思いますので最後に紹介します。ポリネシア諸島の東、チリ領に位置するイースター島。モアイ像で有名なこの島は、1722年にオランダ海軍がこの島を発見したのがその年のイースターの日であったことから、「イースター島」との名前が付けられました。

多くのアメリカ人にとって、イースターは宗教的な行事であるだけでなく、家族や友人などと集まり、たまご料理などを囲んでお祝いをする大切な機会でもあるようです。小さなお子さんがいらっしゃるご家庭では、スクールや近所のコミュニティ等で、エッグペイントやエッグハントといったイベントにも多く触られることでしょう。

繰り返しになりますが、イースターは復活祭。清々しい生気を取り戻す春の息吹のように、日本経済が上向き日も訪れますように。



(編集委員 井上彩乃)